工学部卒業八名、博士前期課程修了十一名、そして博士後期課程修了二名の皆様、本日は大変おめでとうございました。また、これまで、見守ってこられた卒業生、修了生のご家族の皆様にも心よりお喜びを申し上げます。

さて、現在の日本は、従来の「ものづくり」の概念だけでは立ち行かない状況になってきております。これは日本に次のステージが求められていることを意味していると思います。先端技術を活かして、人々を幸福に導く新しいシステムを創成し産業化してゆくことが、これからの日本の重要な役割の一つではないでしょうか。この方向に向かうためには、一層高度な研究開発力が必要とされます。皆様には、それぞれの世界で、この一翼を担っていただけるよう期待します。

もう一つ、日本国内における重大な問題として、大都市圏への一層の人口集中と、大都市圏外における著しい人口減少の問題があります。皆様の中には、出身の地へ戻って活躍す

る方、また将来的にそのような希望をもっている方も多いと思います。是非、特色ある製品あるいはシステムを研究・開発し、それぞれの地域を大いに活性化して頂きたいと思えます。また、工学を有効活用し、危機的状況にあるといわれる日本の農業と食文化の立て直しも視野に入れておくべきことであると思えます。皆様の中からそれぞれの地域活性化の核になるような人材が多数育つことを期待します。

留学生の方々におかれましては、それぞれ多様な目標をお持ちでしょう。それぞれの道で、留学という素晴らしい体験を活かして、世界的な視野で活躍して頂きたいと思えます。日本で、そしてこの山形で学んだことを、誇りに思っていただきたいと思えますし、我が大学もそう思い続けてもらえるよう、発展して行きます。

山形大学工学部は、1910年の米澤高等工業学校創立以来、百周年を迎えました。山形大学工学部は、日本一魅力あ

る工学系教育機関であると同時に、世界における代表的研究機関であることを今後も目指し続けます。日本中から世界中からあこがれを持って学徒が集まる、そういう大学を目指します。それをもって米沢を、そして山形を活性化していきます。この目標は、現役の教員と学生だけで達成しうるものは到底有りません。卒業生の皆さんの活躍、また、折に触れての大学へのご協力が不可欠です。是非、山形大学を卒業、修了されたことを誇りに思っていたいただき、今後の大学の発展にご協力を頂ければと思います。

最後になりますが、皆様の前途が充実したものであることを、心よりお祈りいたします。本日は誠におめでとうございました。

平成22年9月27日

本来は、工学部長が式辞を述べるべきところでありましたが、

本日は、副学部長 黒田充紀 が代行致しました。